



草津市立志津小学校 学校だより

—学校教育目標—

人にやさしく、自分を高め、みんなのために役立とう

～夢や志を育む学校～

くすのき



令和3年(2021年)9月30日

No. 15

GIGAスクール「志津小」

Global and Innovation Gateway for All

校長 中村 真理子

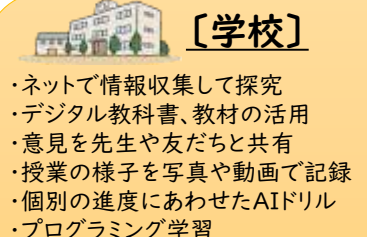
～1人1台「タブレットPC」の活用～

〔社会〕



- ・海外や遠隔地との交流学習
- ・大学・企業・博物館や地域の人々とオンラインでやりとり

〔学校〕



- ・ネットで情報収集して探究
- ・デジタル教科書、教材の活用
- ・意見を先生や友だちと共有
- ・授業の様子を写真や動画で記録
- ・個別の進度にあわせたAIドリル
- ・プログラミング学習
- ・オンライン集会 等

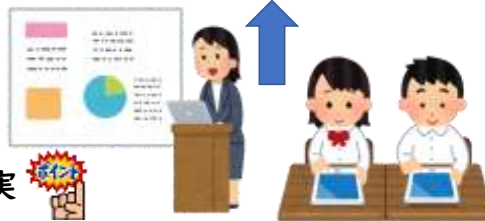
〔家庭〕



- ・オンライン授業
- ・日々の連絡、週予定の確認
- ・Teams ファイルの活用
- ・家からでも、先生や友だちに会える



「情報モラル」の教育の充実



教職員研修の充実

緊急事態宣言下、8/30(月)から4週間の「オンライン授業」では、保護者の皆様方には回線の接続に関する心配など、子どもたちの学びを止めないために、多大なご協力をいただき本当にありがとうございました。保護者の皆様方の温かい支援のおかげで、本校では上図の通り、感染対策をとりながらこの1か月間、子どもたちやご家庭との関係をつなげることができました。タブレットPCにつきましては、学校の授業での活用も重要ですが、各学級の「週予定」や学習に必要なプリント・連絡帳等の内容を、Teamsのファイル機能を使って、ご家庭と学校との間でやりとりができたことは、大きな成果です。

今回、毎日、タブレットPCの持ち帰りなどを経験したことで、子どもたちは、自分のタブレットPCを「文房具」のように使うことができました。これからの将来に向けて、タブレットPCなどのICT機器が、子どもたち自身の資質を磨く道具であり、将来を切り開く武器になることを、各ご家庭で感じてくださったのではないのでしょうか。教育の情報化や、社会のデジタル化に対応できる子どもたちを育てていくために、心を育てる「情報モラル教育」のさらなる充実を図りながら、これからも「GIGAスクール志津小」の発展に向けて、様々な取組を進めていきます。今後とも、ご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。

『子どもの心に寄り添って』

第4回テーマ「受容(じゅよう)」

「受容」とは、子どもの状態を理解し、焦らずゆっくりと関わり、言動を受け止めることです。子どもたちは「分かっているけれどできない」という状況の中、葛藤することがあります。そのような時に「何でできないの。」「それくらいできるでしょう。」などと否定的に話をされたら、子どもは自分の気持ちを分かってもらえないと感じることでしょう。子どもの言動にイライラすることがあっても、一度深呼吸をして「なぜこの子はこのような言動をとっているのだろう。」と考える余裕を持ち、子どもに関わりたいものです。本校の教職員はもちろんのこと、我々大人は、子どもたちの心を見つめ、察し、受け入れられる存在でありたいものですね。

関わりのポイント

何気ない言動から、子どもの気持ちを感じ取りましょう。
お子さんが一番自分らしさを出せるのは保護者の前です。



